

# エルピス

## 健康情報 25号

長年の懸案であった臓器移植法案が7月13日ようやく参議院で可決成立しました。本人が拒否の意思を表明していない限り、家族の承諾だけで脳死した人からの臓器移植を可能としたことと、提供者が15歳以上に限られていた年齢制限を撤廃し、臓器移植の運用改善が図られました。今回は、腎移植のはなし。

編集担当：中本 勝巳 平成21年8月20日発行

### 腎移植実施症例数

	生体腎	献腎		合計
		脳死体腎	心停止腎	
2003年	728	4	132	864
2004年	730	6	167	903
2005年	834	16	144	994
2006年	939	16	181	1136
2007年	未集計	24	163	—
2008年	未集計	26	184	—

(献腎移植候補者の選定基準)

必須条件 ・ABO式血液型の一致 ・抗体反応が陰性

優先順位(右記の項目を点数化し、合計点数が多い順にえらぶ)

- ・提供施設と移植施設の所在地 ・HLA型の不一致数の少なさ
- ・待機年数 ・16歳未満者

腎臓が機能しなくなった時には、生命や生活を維持するために継続的な透析療法を受ける必要があります。血液透析を選択されている大多数の皆様は、週3回、治療のため必ず通院する必要があります。時間的な拘束をうけること。それから水や食事の制限。貧血やアミロイド、カルシウムの沈着のリスクなど…。数々のハンディキャップを抱えています。透析技術や治療薬の進歩によって改善したとはいえ、出来ることなら、透析を受けたくないと考えておられることとおもいます。この問題を、解決するためには、現状では腎臓移植以外に方法はありません。

## 腎移植

二〇〇六年度、はじめて一〇〇〇人の大台を超え一三六人に移植が行われました。このうち九三九人は生体腎移植(親兄弟、配偶者がおもな提供者)であり、脳死を含む献腎はわずか一一〇人で一九七九人に移植されたのみです。

**献腎移植** 心臓停止後の腎臓提供は一九七九年から行われてきましたが、脳死下での腎臓の提供は一九九七年に臓器移植法が施行されてから可能になりました。しかしながら、提供人数は心停止、脳死を合わせても、この一二年間、毎年一〇〇人前後で、ほとんど増えておりません。

一方で二〇〇九年六月三〇日現在の腎移植を希望する登録者は、一一四三八名、前年二〇〇八年度の献腎による移植は二一〇例ですから55人に1人程度で、順番はなかなか回ってきませんね。

しかし、逆に考えれば1年間で55人に1人の確率であるし、血液型、体格、組織適合性の合う献腎があれば、一挙に確率が上がります。貴方もこの機会に移植について考えてみませんか。

### 日本の腎移植の現状

移植希望者数	11,438名	男 7,462名	女 3,976名
10歳以下	15名	登録後の待機期間	
11~20歳	73名	5年未満	4,757名
21~30歳	447名	5年~10年	3,172名
31~40歳	1,852名	10年~15年	2,234名
41~50歳	3,255名	15年~20年	886名
51~60歳	4,061名	20年以上	389名
61~70歳	1,621名	2009年6月30日現在	
70歳以上	114名		

2006年度の献腎移植者の平均年齢は47.3歳で50歳代が最も多く74例、次いで40歳代が60例、最年少が4歳、最年長が67歳です。登録後移植までの平均日数は5286日(約15年)です。※16歳未満者には優先加点がある。

◆2006年度は、全国136の施設で移植が行われました。

### 献腎移植の登録方法

献腎移植を希望する場合は、(社)日本臓器移植ネットワークに登録する必要があります。

- ① 透析施設で登録の申込をする。通院先の施設に申込用紙があります。
- ② 移植施設で受診する。移植可能と診断された方は登録料3万円をネットワークに振込む。
- ③ 組織適合検査(HLA検査)を受ける。検査料は自己負担ですが、助成があります。県によって助成額がちがいます。
- ④ 登録完了。検査結果などをネットワークが登録した後、登録完了通知が届きます。
- ⑤ 毎年3月に更新手続。更新料5千円と保存血清のための採血が必要です。

後は、ネットワークから献腎が出て移植候補者となったとの連絡を待つのみです。皆様に一日もはやく連絡が来ることを祈っています。

#### 《移植費用》

移植にかかわる手術、治療費は、医療保険等によって原則無料ですが、ネットワークに対してコーディネート経費100,000円と提供臓器の摘出医師派遣費および臓器搬送費の実費を支払う必要があります。

### 社会的認知度を高める努力

今回の改正により日本の臓器移植は法制面から一歩前進しましたが、臓器移植を推進するためには、学校教育や有識者らによる情報提供、フォーラムなどで根気よく国民に理解を求め、意識を肯定的に変えていく不断の努力が必要だとおもっています。まずは、移植を受けたいと思っている貴方、そして家族、友人へと臓器提供意思登録の輪を広げましょう。